

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-1-(1)
事業名	子どもクラブ (1)レガスクラブ			担当課	子ども・地域課
				経営計画	名称の変更
目 的	子どもたちのニーズがあっても、学校教育の場で実践することが難しいスポーツや学習内容について、小学生が継続的に参加できるスポーツ活動及び学習機会を提供する。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	10,777	11,554	△ 777	部	経常増減の部
自主事業収益	2,967	2,801	166	大	事業費
自主財源	2,728	2,712	16	中	4号事業費
自主財源(人件費)	5,082	6,041	△ 959	種別	自主事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

旧4-1号事業「子どもクラブ」について内容を精査、事業ごとにそれぞれ枝分けし名称を変更する。

(1) レガスクラブ(総合学習プログラム)

区内の資源(団体・施設・自然等)を活用し、子どもたちが楽しく学び活動できる場を提供する。

- ① 実施日 5月から3月まで(全20回)
- ② 対象・定員 小学生・55名

(2) レガスクラブ(スポーツ活動/学習活動プログラム)

平成22年度に実施した「子どもクラブ参加者アンケート」の実施内容を基に、子どもたちが楽しく活動できる場を提供する。(※財団主催事業等での成果発表も行えるように工夫する。)

- ① 実施日 全20回(※活動内容によっては前期10回、後期10回として実施する。)
- ② 対象・定員 小学生・定員20~30名 ※活動内容によっては未就学児の参加を可とする。

2 成果指標

延べ参加者数 6,750人(22年度実績 4,985人)

3 実施上の課題

- (1) 大学や民間企業等との連携を強化し、多様な学習機会の創出と参加者増加のための工夫を行う。
- (2) 小中学生のニーズに即したプログラム内容と講師の選定を行う。
- (3) プログラム内容に沿った対象学年の設定、見直しを行う。
- (4) 区内全域から多くの参加者を得るための会場及び実施日時等の選定、設定を工夫する。

4 実 績

	平成22年度		平成21年度	
	応募者	参加者	応募者	参加者
レガス総合	49	48	59	54
レガス定期	314	248	394	275

5 対前年度予算増減説明

人件費配分策定減による減

根拠法令・規程	社会教育法、スポーツ基本法、小学校学習指導要領	事業開始	平成22年度
---------	-------------------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-1-(2)
事業名	子どもクラブ (2)子ども未来講座			担当課	子ども・地域課
				経営計画	名称の変更
目 的	民間企業及び大学と連携、協働し、小中学生に楽しく科学体験できる機会を提供する。また、小中学生が実験や観察、理科工作を通して、参加者相互の交流と科学に対する興味や関心を育む。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	10,094	5,802	4,292	部	経常増減の部
自主事業収益	1,596	1,548	48	大	事業費
自主財源	5,765	1,525	4,240	中	4号事業費
区補助金(人件費)	2,733	2,729	4	種別	自主事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

旧4-1号事業「子どもクラブ」について内容を精査、事業ごとにそれぞれ枝分けし名称を変更する。

(1) 夏休み体験講座

学校の夏季休業期間を利用し、区内の大学等と連携し、科学体験講座を実施する。

- ① 実施日 全4回
- ② 対象・定員 小学生・30人

(2) 宇宙の学校

区立学校の理科部会の教諭等と連携し、宇宙の仕組み等を学ぶ場を提供する。

- ① 実施日 全4回
- ② 対象・定員 小学生・70人

(3) 科学実験教室

民間企業及び大学等と連携し、子どもたちに科学について楽しく学ぶ機会を提供する。

- ① 実施日 全6回
- ② 対象・定員 小学生・30人

(4) 特別イベント(サイエンスフェスタ)

民間企業及び大学、区立学校の理科部会の教諭等と連携し実施する。

- ① 実施日 3月
- ② 対象・定員 小中学生・300人

2 成果指標

延べ参加者数 880名(22年度実績 753名)

3 実施上の課題

- (1) 大学や民間企業等、新たな連携先を確保し、多様な学習機会をつくり、参加者増につなげる。
- (2) 既存のプログラムばかりではなく、財団と連携先による独自のプログラムを開発し実施する。
- (3) 国等の補助金を積極的に活用する。

4 実 績

22応募者数	22参加者数	21応募者数	21参加者数
769	512	538	343

5 対前年度予算増減説明

委託費精査による増

根拠法令・規程	社会教育法、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領	事業開始	平成22年度
---------	---------------------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-1-(3)
事業名	子どもクラブ (3)キッズ伝統芸能			担当課	子ども・地域課
				経営計画	名称の変更
目 的	1. 次世代を担う子どもたちの育成事業の一環として、日本の心を見つめなおす機会を提供する。 2. 子ども達だけではなく、家庭や学校、さらに地域で、伝統への関心を高めながら次世代へ継承し、文化的魅力を深めていく。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	0	0	0	部	経常増減の部
自主事業収益	0	0	0	大	事業費
自主財源	0	0	0	中	4号事業費
区補助金(人件費)	0	0	0	種別	自主事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

- (1) 文化芸術産業の団体等と連携し、新宿文化センターで体験プログラムを実施する。
- (2) 小中学生、高校生を対象に全21回程度、定員12名で2クラスで実施する。

2 成果指標

※今年度達成指標 参加者数24名

3 実施上の課題

- (1) 子どもたちのニーズ、事業意図に沿った、地域団体並びに民間企業、各種学校等との連携による事業運営の検討する。
- (2) より広くから多くの参加者を得るため、プログラム内容の見直し、子どものニーズに応えるためのアンケートの実施方法、内容の精査、高い満足度を継続するための魅力的な事業の展開する。

4 実 績

平成22年度 10月10日から3月27日まで全15回、新宿文化センター」で実施。
小・中学生、高校生が対象
定員24名、応募者27名、参加者24名、延べ参加者数163

平成21年度 定員24、応募者54名、参加者24名

5 対前年度予算増減説明

増減なし

根拠法令・規程	社会教育法	事業開始	平成22年度
---------	-------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-1-(4)
事業名	子どもクラブ (4)のびのびクラブ			担当課	子ども・地域課
				経営計画	名称の変更
目 的	運動遊びや体育スポーツを通して、子どもたちが積極的にカラダを動かせる場をつくり、子どもたちの基礎体力の向上を図るとともに、心身の健全な発達と健康・体力の増進を図る。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	2,189	2,183	6	部	経常増減の部
補助事業収益	540	540	0	大	事業費
区補助金	867	863	4	中	4号事業費
区補助金(人件費)	782	780	2	種別	補助事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

旧4-1号事業「子どもクラブ」について内容を精査、事業ごとにそれぞれ枝分けし名称を変更する。

(1) 土曜日/スキップコース

運動遊びや体育スポーツを中心に、柔軟性や持久力を必要とした運動プログラムを中心に基礎体力の向上を目的に、年間30回(90分/回)実施する。

(2) 水曜日/チャレンジコース

運動遊びや体育スポーツの種目の中から、子どもたちに身近な種目(なわとびやかっこ、マラソンなど)を選定し、1種目全8日のスケジュールで年間3種目実施する。

2 成果指標

延べ参加者数 2,700人(22年度実績 1,556人)

3 実施上の課題

(1) 子どもたちのニーズ、事業意図に沿った、地域団体及び民間企業、各種学校等との連携による事業運営のあり方を検討する。

(2) より広くから多くの参加者を得るため、プログラム内容の見直し、子どものニーズに応えるためのアンケートの実施方法、内容の精査、高い満足度を継続するための魅力的な事業を実施する。

4 実 績

	事業名	日程	定員	応募者	参加者	延べ参加人数
H21	土曜日/スキップコース	5/15~3/19	50人	48人	41人	604人
	水曜日 なわとびにチャレンジ	6/2~7/21	30人	53人	53人	300人
	水曜日 かっこにチャレンジ	8/25~10/31	30人	41人	31人	266人
	日曜日 マラソンにチャレンジ	11/17~1/28	30人	62人	59人	386人
H22	土曜日/スキップコース	5/15~3/19	50人	27人	41人	585人
	水曜日 なわとびにチャレンジ	5/22~7/10	30人	51人	51人	290人
	水曜日 かっこにチャレンジ	8/28~10/16	30人	32人	32人	213人
	日曜日 マラソンにチャレンジ	11/27~1/29	30人	59人	59人	130人

5 対前年度予算増減説明

消耗品費の精査による増

根拠法令・規程	社会教育法、スポーツ基本法、食育基本法、小学校学習指導要領	事業開始	平成22年度
---------	-------------------------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-1-(5)
事業名	子どもクラブ (5)新宿ミュージカル講座			担当課	子ども・地域課
				経営計画	名称の変更
目 的	児童・青少年に、一つの舞台作品を創り上げることを目標に、文化芸術活動に触れる機会を提供し、豊かな人間性を育むとともに、自主性、創造性を養う契機とする。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	2,639	2,560	79	部	経常増減の部
補助事業収益	1,725	1,875	△ 150	大	事業費
区補助金	132	△ 17	149	中	4号事業費
区補助金(人件費)	782	702	80	種別	補助事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

- 旧4-1号事業「子どもクラブ」について内容を精査、事業ごとにそれぞれ枝分けし名称を変更する。
- (1) 都内の小中学生及び高校生、大学生を対象に、文化芸術体験プログラムとして実施する。
 - (2) 毎週木曜日、全23回、新宿文化センター、新宿コズミックセンター、四谷区民ホール等で実施する。
 - (3) 基本となる動作、発声練習等のプログラム、終了発表会(前日リハーサル)を実施する。
 - (4) 講座最終日には、講師及び参加者、保護者等によるビデオ鑑賞会を実施、総括を行う。

2 成果指標

延べ参加者数 1,150名(22年度実績 535名)

3 実施上の課題

- (1) 参加者のニーズに合わせた講座内容の検討と実施場所、発表会、実施回数等の検討を行う。
- (2) 充実したプログラム実施するためのスタッフの充実と確保を行う。
- (3) より広くからの参加者を得るため偏りの少ない会場を選定する。

4 実 績

- (1) 平成22年度
 - ① 実施場所 新宿文化センター(小ホール)及び四谷区民ホール
 - ② 参加状況 応募者39名、参加者39名
 - ③ その他 修了発表会来場者302名
- (2) 平成21年度(旧財団法人新宿文化・国際交流財団で実施)
 - ① 実施場所 新宿文化センター(小ホール)及び四谷区民ホール
 - ② 参加状況 応募者33名、参加者29名
 - ③ その他 修了発表会来場者約200名

5 対前年度予算増減説明

人件費配分見直しによる増

根拠法令・規程	社会教育法、新宿区文化芸術振興基本条例	事業開始	平成22年度
---------	---------------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-2
事業名	放課後子どもひろば			担当課	子ども・地域課
				経営計画	事業規模の変更
目 的	放課後および学校休業日に、区立の小学校施設を利用し、管理責任者・支援者の安全管理のもと、子どもが安心して遊び、学べる場を提供する。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	302,272	301,351	921	部	経常外増減の部
受託事業収益	1,177	1,106	71	大	事業費
自主財源	14,000			中	4号事業費
区受託料	32,882	34,391	△ 1,509	種別	受託事業
区受託料(人件費)	254,213	265,854	△ 11,641		

事業の計画

1 実施内容(予定)

- (1)戸山小ひろばの運営を学校内学童クラブ運営事業者が受託することとなったため、昨年度の23校から1校減の22校の放課後子どもひろば事業を受託運営する。
- (2)各校ひろば独自の講習会やイベントを企画し、安全かつ楽しく参加できるひろばを提供する。
- (3)学童クラブや児童館と連携したプログラムを実施する。

2 成果指標

自校登録率 68%(前年度実績 67.5%)

3 実施上の課題

- (1)周知を強化し自校登録率を向上させる。
- (2)スタッフ研修の充実、利用者意見の反映、地域と連携したプログラムの充実等により事業の質の向上させる。
- (3)総合型地域文化スポーツクラブを始めとする学校を拠点とした事業との連携する。
- (4)学校内学童クラブと放課後子どもひろばとの一体運営への取り組みを進める。

4 実 績

各校登録者数(平成23年8月末現在)及び在校児童数に占める割合

落合第六小	129人	85%	市谷小	321人	59%	早稲田小	269人	51%
鶴巻小	126人	88%	四谷小	267人	62%	余丁町小	246人	58%
戸山小	146人	39%	江戸川小	58人	91%	淀橋第四小	120人	43%
戸塚第二小	137人	75%	愛日小	192人	86%	落合第三小	200人	46%
落合第四小	291人	81%	牛込仲之小	154人	71%	落合第一	343人	81%
柏木小	236人	67%	天神小	63人	78%	花園	101人	61%
戸塚第一	196人	53%	落合第二小	162人	52%	西戸山	251人	53%
津久戸小	206人	82%	落合第五小	55人	58%			

5 対前年度予算増減説明

受託校数減(23校から22校)による減

根拠法令・規程	放課後子どもひろば事業実施要項	事業開始	平成19年度
---------	-----------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-3-(1)
事業名	子ども青少年体験プログラム (1)夏季施設			担当課	子ども・地域課
				経営計画	廃止
目 的	区立小学校5・6年生を対象に、新野外施設(実施場所未定)、女神湖高原学園(長野県北佐久郡立科町)において、小学校単位で2泊3日の野外活動体験学習の場を提供する。				
区 分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	0	31,693	△ 31,693	部	経常増減の部
受託事業収益	0	20,371	△ 20,371	大	事業費
区受託料	0	8,984	△ 8,984	中	4号事業費
区受託料(人件費)	0	2,338	△ 2,338	種別	受託事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

区教育委員会にて、千代田湖キャンプ(長野県伊那市)の中止に伴う夏季施設全体の見直し、事業内容、実施場所等の検討の結果、平成24年度から区教育委員会直轄事業となったことを受け廃止。

2 成果指標

3 実施上の課題

4 実 績

5 対前年度予算増減説明

根拠法令・規程	文化芸術振興基本法、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領	事業開始	H22年度
---------	-------------------------------	------	-------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-3-(2)
事業名	子ども青少年体験プログラム (2)対話式美術鑑賞教室			担当課	子ども・地域課
				経営計画	名称の変更
目 的	区立小・中学校の児童、生徒の美術作品及び美術文化への理解を深めるため、区内並びに区均衡の美術館と対話式美術鑑賞教室を実施し、学校の教育活動を支援する。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	7,250	7,687	△ 437	部	経常増減の部
受託事業収益			0	大	事業費
区受託料	4,901	4,957	△ 56	中	4号事業費
区受託料(人件費)	2,349	2,730	△ 381	種別	受託事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

「美術 対話式鑑賞」から「対話式美術鑑賞教室」に名称を変更する。

(1) 対話式美術鑑賞教室

公益財団法人損保ジャパン東郷青児美術財団損保ジャパン東郷青児美術館及び区立小・中学校と連携し、小学校4年生、中学校1年生を対象に対話式美術鑑賞教室(1校あたり90分)を実施する。

(2) 事前学習授業

対話式美術鑑賞教室実施校39校で事前学習授業(1校1時限以上)を実施する。事前学習授業は、ボランティアガイドスタッフが教材用資料を使ってワークショップ形式で実施する。

2 成果指標

参加者数 2,250名(22年度実績1,991名)

3 実施上の課題

- (1) 対話式美術鑑賞教室のノウハウを構築し、充実した事業運営を行うべく区均衡及び都内の美術館等の調査を行う。
- (2) 美術館をはじめ区立小中学校の図工・美術の教員と連携し、教材資料(ポストカード等)を活用したプログラムの開発を行う。
- (3) 事前授業未実施校に対する事前授業の周知と導入を行う。

4 実 績

平成22年度実績

① 対話式美術鑑賞教室

公益財団法人損保ジャパン美術財団損保ジャパン東郷青児美術館と協力し、対話式美術鑑賞教室を実施。区立小学校29校、区立中学校10校の計39校で実施、延べ1,991人の児童・生徒が参

② 事前学習授業

区立小学校21校、区立中学校6校の計27校で事前学習授業を実施。教材用ポストカードを使ってワークショップ形式で実施。

③ 美術館及び区立小・中学校のコーディネート

1学期、2学期は引き継ぎと打ち合わせを兼ねて担当職員が事前学習授業に同行。3学期実施校については、財団にて美術館並びに区立小・中学校の実施時期、実施方法等をコーディネート。

5 対前年度予算増減説明

人件費配分算定による減

根拠法令・規程	文化芸術振興基本法、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領	事業開始	平成22年度
---------	-------------------------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-3-(3)
事業名	子ども青少年体験プログラム (3)音楽 ドレミ倶楽部			担当課	子ども・地域課
				経営計画	継続
目 的	芸術のアウトリーチ活動として、生演奏に触れる機会の少ない小中学生のために身近な区内小・中学校等へプロの音楽家を派遣し、芸術を身近に体験できる機会を提供しする。				
区 分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	1,647	1,437	210	部	経常増減の部
補助事業収益	1	1	0	大	事業費
区補助金	864	890	△ 26	中	4号事業費
区補助金(人件費)	782	546	236	種別	補助事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

- (1) 10校程度での実施をする。
- (2) 区立小・中学校や新宿養護学校等への打楽器やブラスバンド、邦楽楽器等のアンサンブルを派遣する。
- (3) 学校内体育館等身近な会場で45分程度のミニコンサートを開催する。
- (4) 対象者は、生徒、職員、保護者等とする。

2 成果指標

参加者数 1,000人(前年度実績 851人)

3 実施上の課題

- (1) 要綱等を整備して、地元企業に広く協力してもらえる体制作りを行う。
- (2) 金管五重奏の演奏だけでなく、実施校の希望に合わせて打楽器・邦楽器など多様な楽器を提案する。

4 実 績

- (1) 平成22年度
 - ① 7月 東戸山小学校 体育館 317名(教職員・保護者等含む)
 - ② 9月 鶴巻小学校 体育館 173名(教職員・保護者等含む)
 - ③ 9月 淀橋第四小学校 体育館 300名(教職員・保護者等含む)
 - ④ 1月 新宿養護学校 体育館 61名(教職員・保護者等含む)
- (2) 平成21年度
インフルエンザの影響で実績なし

5 対前年度予算増減説明

消耗品単価見直しによる減

根拠法令・規程	社会教育法、文化芸術振興基本法	事業開始	平成19年度
---------	-----------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-3-(4)
事業名	子ども青少年体験プログラム (4)歴史 小・中学校との連携事業			担当課	学芸課
				経営計画	事業規模の変更
目 的	1.新宿区内在学・在住の児童・生徒が、新宿区の歴史や文化に対する興味と親しみを深め郷土愛を育むため、学校単位での博物館利用を進める。 2.区内の小中学校と連携・協力し、児童・生徒の地域学習・歴史学習への理解を深める取り組みを推進することで、学校の教育活動を支援する。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	1,493	714	779	部	経常増減の部
補助事業収益	0	0	0	大	事業費
区補助金	323	323	0	中	4号事業費
区補助金(人件費)	1,170	391	779	種別	補助事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

- (1)小中学校からの社会科見学、中学生職場体験の受入を行う。
- (2)新宿の歴史や博物館資料について、学校に対するレファレンス協力を周知する。
- (3)学校授業へ貸出用博物館資料の貸出を行う。
- (4)区立中学校に「中学生向けリーフレット」を配布する(全生徒配布)。
- (5)貸出用博物館資料と体験プログラムを充実させる。
- (6)教職員研修会・研究会との調整を行う。
- (7)新宿の歴史文化に関する新たな学校授業メニューの提案と、学芸員による出張授業を行う。
- (8)協働企画展「区内小学校名宝展」を開催する(平成23年度から継続)。
- (9)学校授業メニュー提案、学芸員による出張授業等、小中学校との連携強化のため事業規模を変更する。

2 成果指標

連携学校数:36校(22年度実績:38校)

3 実施上の課題

- (1)多くの小中学校の社会科見学利用促進と、特に中学校の利用件数増加に向けた、利用促進するため、実施前年度の1～3月に区教育委員会と調整を行う。
- (2)各時代、テーマに合致した体験用資料の増加と整備、及び博物館の展示や資料を活用した、わかりやすく適切な講義が行なえる人材を育成する。
- (3)資料を通じて生活史、体験を伝えるボランティアガイドの導入と育成を行う。
- (4)小中学校へ授業提案メニューやハンズオン等の周知を行い、学校教育の中で博物館資料の活用を充実させる。

4 実 績

- | | | |
|-------------------|-------------------|---------------|
| (1)社会科見学・職場体験の受入 | 平成21年度 27校 1,208人 | |
| | 平成22年度 26校 1,299人 | |
| | 平成23年度 21校 844人 | ※平成23年12月末日現在 |
| (2)小学校への貸出用資料等の貸出 | 平成21年度 11校 730人 | |
| | 平成22年度 12校 706人 | |
| | 平成23年度 3校 194人 | ※平成23年12月末日現在 |
| (3)出張授業 | 平成23年度 3校 | ※平成23年12月末日現在 |
| (4)教員対象研修 | 平成23年度 2回 | ※平成23年12月末日現在 |

5 対前年度予算増減説明

「出張授業」、「教員対象研修」等、小中学校との連携強化に係る人件費配分算定増による増

根拠法令・規程	博物館法、新宿区立新宿歴史博物館条例	事業開始	平成18年度
---------	--------------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-3-(5)
事業名	子ども青少年体験プログラム (5)こども文化体験プログラム			担当課	子ども・地域課
				経営計画	廃止
目 的	区民の自主的な文化・芸術活動を活発化し、地域文化の活発化を図るため、区内で活動する。文化芸術団体や芸術家と協働し、区民が低廉で気軽に文化を体験できるプログラムを提供する。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	0	1,207	△ 1,207	部	経常増減の部
受託事業収益	0	24	△ 24	大	事業費
区受託料	0	625	△ 625	中	4号事業費
区受託料(人件費)	0	558	△ 558	種別	受託事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

区担当課と、人件費等予算面及び実施内容について検討してきたが、区直轄事業として実施することになったことを受け廃止。

2 成果指標

3 実施上の課題

4 実 績

5 対前年度予算増減説明

根拠法令・規程	文化芸術振興基本法、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領	事業開始	平成22年度
---------	-------------------------------	------	--------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-3-(6)
事業名	子ども青少年体験プログラム (6)歴史 小・中・高生対象事業			担当課	学芸課
				経営計画	統合
目 的	1.学校の長期休暇期間を中心に、地域の児童・生徒が、郷土の歴史や文化財を学ぶ楽しさを体験し、博物館に親しみを持ってもらう。 2.児童・生徒が個人または家族で参加できる体験型・見学型の講座を開催する。 3.博物館利用の少ない青少年層の博物館利用促進を図るため、中高生に向けた歴史講座を開催する。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	1,050	821	229	部	経常増減の部
補助事業収益	194	79	115	大	事業費
区補助金	193	157	36	中	4号事業費
区補助金(人件費)	663	585	78	種別	補助事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

(1) 夏休み子ども講座

- ① 体験講座 勾玉作り 100名×2回 無料
- ② 都営地下鉄・都電車両検修所見学会 4回
- ③ 羽田空港車両見学会 2回
- ④ イラスト講座(オリジナルTシャツ) 1回

(2) 子ども講座(通年)

- ① オリジナルリース作り 2回 : 春と冬
- ② ミニ博連携講座 1回 : 冬

(3) 中学生・高校生歴史文化講座 2回: 春

(4) 中学生・高校生体験事業のうち歴史に関する事業は、青少年に対する歴史文化に係る事業一体化により効果を高めるため、本事業に統合する。

2 成果指標

参加者:340人(22年度実績:657人)

3 実施上の課題

- (1) 中高生講座を通じて、将来子ども対象事業等でボランティアとして活躍する人材を育成する。
- (2) 児童・生徒及び保護者のニーズを調査・分析し、他機関と連携して新たなコンテンツを開発する。
- (3) 区内小中学校教諭等との連携を深めるため、教職員研究会等へ積極的に参加する。

4 実 績

(1) 平成22年度 実績「夏休み子ども講座」計657名(21年度461名)前年度比143%

- ① 勾玉作り (会場:博物館・コズミックセンター) 2回 無料 315人
- ② 都営地下鉄大江戸線木場車両検修場見学会 3回 有料(100円)160人
- ③ 都電荒川線で行く荒川車両検修場見学会 2回 有料(200円)106人
- ④ 韓国文化院を訪ねて 1回 無料 43人
- ⑤ 民音音楽博物館で音楽を体感 2回 無料 33人

(2) 平成23年度 実績「夏休み子ども講座」計653名(22年657名)前年度比99.3%

- ① 勾玉作り (会場:博物館・コズミックセンター) 2回 無料 295人
- ② 都営地下鉄大江戸線木場車両検修場見学会 3回 有料(100円)161人
- ③ 都電荒川線で行く荒川車両検修場見学会 2回 有料(200円)125人
- ④ オリジナルトートバッグを作ろう! 1回 有料(600円)60人
- ⑤ イラスト講座 1回 有料(300円)12人

5 対前年度予算増減説明

「中学生・高校生体験事業」歴史講座統合に係る人件費算定配分算定増による増

根拠法令・規程	博物館法、新宿区立新宿歴史博物館条例	事業開始	平成元年
---------	--------------------	------	------

平成24年度事業計画書

(単位:千円)

定 款	4 次代を担う児童や青少年の育成			事業・枝事業番号	4-3-(7)
事業名	子ども青少年体験プログラム (7)中学生・高校生体験事業			担当課	子ども・地域課
				経営計画	事業規模の変更
目 的	青少年の健全育成を図るため、中高生にボランティア活動や社会奉仕活動、その他体験プログラムを提供する。				
区分	予算額	前年度予算額	比較増減	会計	公益目的事業会計
事業費	775	942	△ 167	部	経常増減の部
補助事業収益	30	33	△ 3	大	事業費
区補助金	80	129	△ 49	中	4号事業費
区補助金(人件費)	665	780	△ 115	種別	補助事業

事業の計画

1 実施内容(予定)

- (1)ボランティア活動プログラム … 地域団体やNPO団体、介護福祉施設等と連携し、ボランティア活動への参加を通して地域活動への関心を促すとともに、他者とのかかわりの中で社会性を育む。
参加料 0円 定員 15名 開催日数 3日間×2事業
- (2)自己実現プログラム … 中高生の興味ある事業への参加を通して、仲間との交流・活動の中でリーダー的人材を育成し、演劇・ダンスなど共同で一つの作品を作り上げる。
参加料 200円 定員 15名 開催日数 5日間×1事業
- (3)職業体験
・キャリアデザインプログラム … 区内団体や民間企業等と連携し、職業体験への参加を通して職業観や勤労観、キャリアを形成する。
参加料 200円 定員 15名 開催日数 5日間×1事業

2 成果指標

述べ参加者数 240人(22年度実績 121人)

3 実施上の課題

- (1)青少年の多様なニーズに対応したプログラムを提供するための協力団体を確保する。
(2)中学生・高校生スタッフに企画段階から参画してもらえよう条件を整備する。
(3)ジュニアリーダー育成事業の実施に向け関係団体との調整を進める。

4 実 績

実施年度	実施内容	実績
平成23年度	放課後子どもひろばでボランティア体験	応募者57名 述べ参加者146人(24日間)
	ヒップホップ体験	応募者9名 述べ参加者46人(6日間)
平成22年度	放課後子どもひろばでボランティア体験	応募者39名 述べ参加者89人(22日間)
	ヒップホップ体験	応募者15名 述べ参加者32人(3日間)

5 対前年度予算増減説明

一部プログラムを「歴史 小・中・高生対象事業」へ組み替えることによる減

根拠法令・規程	社会教育法	事業開始	平成22年度
---------	-------	------	--------